



しづる

令和7年度は日本にとって復興や国際的なイベントが重要な年でした。「山出区

『年頭ご挨拶』

柘植地域まちづくり協議会

会長 宮田 隆司

柘植地域の皆様、明けましておめでとうございます。お健やかに新しい年を迎えられ、今年一年の幸福と健康を祈願されたことでしょう。

お正月は意義深く、おめでたくて、心あらたま。常日頃考えられないことも考えた。無沙汰のお詫びもしてみたい。

そして、新たな勇気と希望も生み出したい。すがすがしくて、さわやかで、お正月はいいものである。(故・松下幸之助氏の言葉から)皆さんにとって、よりよい一年でありますように、心よりお祈り申し上げます。

柘植地域 まちづくりだより 第324号

発行

柘植地域まちづくり協議会事務局
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地
(柘植地区市民センター内)



発行日

令和七(2025)年十二月二十六日(金)
電話 四五一八八八〇 FAX 四五一八八八三
〒五一九一四〇二

柘植地域俳句コーナー
六代を
重ねし庭の
実千両
小川 秀子

- 1、能登半島からの復興
- 2、大阪・関西万博の開催→日本の技術力と文化的魅力を世界に発信する絶好の機会となった。
- 3、マイナナンバーカードの普及
- 4、自然災害・・・1月には、青森で大雪が発生し、鹿児島県トカラ列島では震度6弱の地震が観測された。令和7年は、復興や国際的なイベントを通じて、日本の災害復興力と平和への再確認をする年となった。

そして、昨年度、スーパーから米が消える「令和の米騒動」が起きた。市民が主食を買えない異常事態。その後、価格も急騰し、さらに、食品やサービスの「値上げラッシュ」が家計に追い打ちをかけた。

米は猛暑の被害が価格高騰の一因となっており、気候変動が産業に及ぼす最も悪い影響を聞くと、「高温障害や風水害、虫害による農産物の収量低下」が最も高い。今後、価格高騰対策と同時に、猛暑に強い米の普及促進や高温対策のための「水路確保などのインフラ強化」が求められる。日本にとって、初めての女性総理に期待いたします。

しかしながら、面白い話題も沢山ありました。野球の世界では、「伊賀市から2名のプロ指名」■藤原選手は、阿山中から水口高校へその後、花園大学へ、伊賀市民の夢と希望を。子供たちは大きな目標ができたのではないのでしょうか。(東北楽天イーグルス) ■神村学園伊賀の西川選手は、高い身体能力を活かした守備と走塁が持ち味。(広島カープ) みんなで応援しましょう。

■そして、伊賀市島ヶ原出身でJリーグの社長が誕生いたしました。(倉坂昇治氏62歳)プロフィール・・・京都大学法学部卒。経営方針の一つに、「地域の公共交通のあり方」を促進するとある。このチャンスを活かさないではいけない。そのように思われませんか。これを機会に関西本線のあり方など、是非土俵にのせたいものである。

さて、私達の「つげまち」の活動は地域一体となって「全員参加のまちづくり」を目指しています。

1、地元企業との連携については、引き続き情報の共有化と地域活動への参画を進めています。「健康うんどう」、「収穫祭」、「防

「防災活動」、「地域行事」への参画などです。今年度は是非とも、新年の賀詞交歓会を実施したいと思っております。

2、収穫祭には、トレイルランニングと併催して、主催者やランナーから多大な評価をいただいております。今年も内外からの参加や、来賓の方々の参加もいただき、盛大に終わることができました。

3、各部会活動に於いては、地元住人の方々を中心に、「多文化共生」を重視した活動を展開しています。その中で、小林区、青葉台区なども外国人の方々をお招きして区内活動に招待されています。また、人権推進として、ベトナム出身の方に講師をして頂き、日本で生活していくためのマナーや日常での困りごとへの対応などについて話していただきました。子供から、大人まで「喜んでいただける」活動を展開していただいている部会長、委員長さんを中心に部会活動の輪が繋がってきたことに感謝しております。

しかし、今後これらのことが、自分たちの満足では不十分なので、運営委員会で活動評価のあり方を検討し、全員参加の全員評価を以下の要領ですすめて参りたいと考えております。

これからの内・外部からの評価の方法と内容について、考え方を報告させていただきましますので、参加者の皆様方のご協力をお願いいたします。

『新年のご挨拶』

伊賀市長 稲森 稔尚



1、行事予定は予定通り終了したのか。内容・予算など。2、行事予定の参加人数は計画通りだったか。3、参加者の満足度はどうだったのか。(アンケート)4、維持継続の必要度はどうか。5、運営委員会での総合評価を実施し、総会にて報告する。これらを新たに取り入れ、しっかりとした「まちづくりの基盤」にしていきたいと思います。私の好きな言葉を二つ紹介させていただきます。1、やれることを増やすより楽しいことを増やす方がいい人生。(精神科医)随筆家・斎藤茂太)2、夢なき者に理想なし。理想なき者に計画なし。計画なき者に実行なし。実行なき者に成功なし。故に夢なき者に成功なし。(思考家)教育者・吉田松陰)

あけましておめでとうございます。柘植地域の皆様が健やかに新春をお迎えの事をお慶び申し上げます。また、日頃から市政の推進にご協力いただき感謝

申し上げます。

さて、地元・いがまち地域から伊賀市長としての重責をお預かりして一年が経過しました。就任以来「まち」と「むら」が力を合わせ、「子ども」も「大人」もいきいきと輝く、持続可能なまちづくりを市民参加で創造していくことに注力してまいりました。この一年余りで多くの取組みをして来ましたが、その中から主なものをいくつかお伝えいたします。

人間の生存に欠かせない食糧を生産して、豊かな森林や田畑を守る農村地域の振興は大変重要な事です。これまで農業・林業の取組みを強化すべく、²⁰²⁵年度に「産業農林部」に名称変更し、林業担当の「未来の山づくり推進室」を新設、部長級の農林担当理事を配置しました。

今後は、伊賀市の10年先の農業と農村を見据えた「伊賀市夢のある農業振興計画」の策定に向けて、初めてのオープンハウス型説明会の開催や多彩な委員メンバーによる計画策定委員会も動き出す事ができました。

その他、地域振興や身近な相談窓口として欠かすことのできない支所機能の充実も図り、周辺地域の切り捨てではなく、それぞれの地域が輝くまちづくりをめざします。

JR関西本線の利用促進・活性化の取り組みとして、昨年2月には名古屋駅と伊賀上野駅を直通で結ぶ実証列車を運行しました。この取り組みで、沿線地域外からの観

光客移動需要を検証しました。さらに、「地域の華を列車に集め、お客様と地域の縁を結ぶ」というコンセプトの観光列車「はなあかり」も昨年11月から12月にかけて運行しました。この列車は、関西方面からの観光客を誘致し、沿線の活性化を図るための大切な取り組みでした。柘植の皆さんには市民参加で観光列車を大変盛り上げて頂いた事にも深く感謝申し上げます。尚、公共交通の更なる充実の為に、地域ぐるみで鉄道・バス等の積極的なご利用もどうかよろしくお願い致します。

「子どもの権利条約」の制定に向けた取り組みです。これまで多くの若者や高校生の切実な声を受け止めて「18歳成人式」の中止を決断し、来年からは「二十歳の集い」として開催する準備を進めています。

これまでの市政の反省から、「権利」として、こども・若者の声をもっと大切に市政とすべく「こどもの権利条約」の制定に向けた検討も動き出しました。

また、昨年9月には子どもの医療費の窓口無料化を18歳まで拡大したところです。

当面は物価高騰から市民の暮らしを守るために全力で伊賀市の経済対策をとりまわっています。今年一年も持続可能で誰もが安心して暮らせる地域のために全力で取り組んでまいりますので、皆様にはご協力いただきますようお願い申し上げます。

結びに、柘植地域まちづくり協議会のご

発展と、皆様のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

令和7年度「住民自治協議会研修会」

11月19日(水)伊賀市ゆめぼりセンターに於いて、今年度3回目(最終回)となる「伊賀市住民自治協議会研修会」が開催されました。市内37ヶ所の住民自治協議会の代表が参加し、今年度のテーマ「持続可能な地域の為に私達に出来る事、やるべき事」について、グループ毎に討議。講師は皇學館大学准教授池山敦氏。各自治協から出た意見の多くに、自治協役員、行事等への深刻な担い手不足。高齢化比率が年々高まり4人に3人が70歳以上。又「人口減どころか消滅危機にある村落」「集落を終わらせる事も選択肢」等々『担い手不足と少子高齢化』が何



処の地域に

於いても大きな問題で打開策が喫緊の共通課題です。

令和7年度「地域意見交換会」

11月20日(木)毎年恒例の伊賀市議会議員との「地域意見交換会」が市民センターで19時から開催されました。開催趣旨は「伊賀市議会では市政への民意反映の場として、希望される自治協を対象に地域意見交換会を実施します。」(議員事務局より)今回、市議側は幹事の山口康子、北森徹、山下典子、西田方計の4氏(敬称略順不同)、自治協代表として役員、区長、部会長、委員長の運営委員会委員が参加。テーマは①旧大和街道に於ける活性化課題(柘植の歴史文化遺産を如何に活かし観光資源として活用する方策は?つげまちの賑わいを復活させる手法は何か②柘植駐在所の在り方③空き家対策④その他懸案課題)草津線の伊賀上野迄の延伸、関西本線の電化延長、柘植駅前の開発整備、豊富な歴史文化遺産の活用、企業誘致の必要性等を討議しました。



性等を討議しました。

【歴史講演会&フィールドワーク】

教育文化部長 増岡 一成



なか、充実した学びの一日となりました。

「忍者が柘植に!?!」と題してお話を頂き、午後3時30分バスで「三上忍を巡るツアー」。伊賀地内の忍者関係史跡を巡りました。午前、午後とも約30人が参加。暖かい陽気の



教育文化部会三事業のひとつ、「歴史・文化遺産の顕彰と啓発」では、今年のテーマを「伊賀忍術」とし、11月22日に伊賀忍術研究会の池田裕先生を講師に招いて学びました。午前は歴史講演

【ウォーキング大会】

「東海道の宿場町として賑わった亀山井田川地区の歴史と文化を体験」

健康福祉部長 高木 康江

11月15日(日)は、柘植地域まちづくり協議会 健康福祉部会主催の井田川方面へのウォーキング大会でした。柘植地区市民センター10時集合、柘植駅まで徒歩15分、JRで柘植駅から井田川駅まで行き、井田川駅から亀山駅に向けてのウォーキングでした。城下町特有のまちなみを散策しながら、有形民族文化財として指定された「和田街道」など見所いっぱいでした。お昼ご飯は



「肉のおかい」でハンバーグランチ。とても美味しく満足!でした。お天気に恵まれ、いい汗を流し、おしやべりに花が咲き、とても充実した一日でした。

★☆☆ 編集後記 ☆☆☆

大寒の大々とした月夜かな 【小林一茶】よく光る高嶺の星や寒の入り【村上鬼城】波打って来る松風や寒の内 【与謝蕪村】寒さが段々厳しくなっていく頃の「小寒」【1月5日】から一年で最も寒い頃の「大寒」【1月20日頃】2月4日頃(立春)迄が「寒の内」。「寒の入り」(小寒)から冬本番が始まります。

『二十四節気』中国で紀元前4世紀頃に発明され、太陽の黄道上の軌跡を15度ずつ24等分して四季・気候等で一年を二十四節に区分。日本には7世紀頃中国から伝来。季節を表す言葉が付けた日本古来の暦で春夏秋冬を更に六つに分け、各節気が農作業や日常生活の目安と為っているもの。冬は立冬・小雪・大雪冬至・小寒・大寒の六節気。「大寒小寒」の言葉を使った童歌(わらべうた)「おおさむこさむ」は今も健在。

令和8(2026)年は、午年(うまどし)。十干「じっかん」十二支「じゅうにし」では丙午「ひのえうま」に当たり、60年に一度巡って来る特別な年。丙「ひのえ」も午「うま」も力強い「火」のエネルギーを持ち、太陽の様に明るく活力に満ちた状態を表し、情熱・前進・飛躍・成功・繁栄・勝負運、そして変化を象徴し「何事もウマく行く」縁起の良い年とされています。「丙午生まれの女性は気性が激しい」と云われた迷信が有りましたが、全く科学的根拠の無いもので、現代では前向きに捉えられています。新しい事への挑戦に最適な年です。〈清水〉